

第7回 住まいとクルマの新しい関係「V2H」

『燃費性能』と『健康性能』から考える「これからの住まいづくり

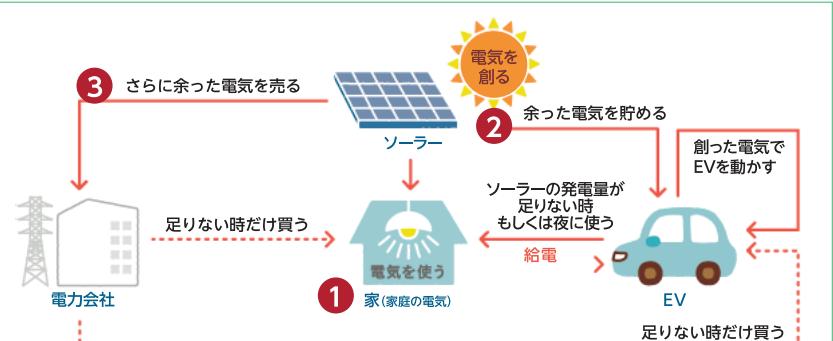
今年4月から長野県では、新築戸建て住宅も「建築物環境エネルギー性能検討制度」と「自然エネルギー導入検討制度」の義務対象になった。住宅で「自然エネルギー導入検討制度」に基づき最も導入が検討される自然エネルギーは、太陽光発電ではないだろうか？

太陽光は、福島第一原発事故以降、子力発電所の事故により、九州電力など5つの電力会社が「固定価格買い取り制度」の受付を一時保留にするなど、

導入が急速に進んでいる。しかしながら、電力会社の再生可能エネルギーの受け入れ能力不足により、中南信越支店の石原範久氏によると、V2Hにより、EVへの充電は電力会社から購入するのではなく太陽光発電による電力を

中心にする固定価格買取り制度において、100%クリーンエネルギーによる走行が可能になると、つまり家の中の消費エネルギーを削減するだけで、車の依存度の高い長野県においても、自家用車の頻度が低く、自家用車依存度の高い長野県においては、とても車は、公共交通機関の使用頻度が低い。

次回は、断熱性能と併せて確保したい気密性能について考えてみたい。



毎週水曜日掲載／次回掲載は5月20日(水)予定

(一般社団法人日本エネルギー
バス協会編
03・6205・4492)



高性能トリプルガラス樹脂窓
APW 430



平成26年度
省エネ大賞
(製品・ビジネスモデル部門)
エコ・エレクトロニクス部門



高性能樹脂窓
APW 330



YKK APは、寒暖の差が激しい長野県の住宅にこそ、年間を通じて快適な室温を維持する「樹脂窓」をおすすめいたします。 詳しくはHPへ <http://www.ykkap.co.jp/> YKK AP 検索